



宮城県大和町にあるジェー・シー・アイの拠点ではオーダーメイドの車いすを製造している

宮城の拠点統合 富谷市に新本社

衛生用品のジェー・シー・アイ

衛生用品や福祉機器を扱うジェー・シー・アイ(仙台市)は、2023年にも宮城県内の拠点を統合し、同県富谷市に新本社を整備する。新型コロナウイルス禍で衛生用品の需要が高まり手狭になっていた物流倉庫を拡充するほか、セミナーを開催できる展示場や認定ことも園を併設する。総投資額は約12億円になる見通し。

同社はオーダーメイドの車いすの製造・販売を祖業とし、介護用ベッドなど福祉機器のレンタル、大人用おむつなどの衛生用品の代理店販売を手掛ける。営業と介護用品の消毒などを手掛ける仙台本社と、車いすの製造や倉庫機能を持つ宮城県大和町の拠点、分散している物流倉庫を新本社

11月に発売予定の泡の色が変化するハンドソープ



コロナ禍需要拡大 倉庫拡充や展示場併設

に集約する。富谷市に約1万600平方メートルの土地を取得した。22年6月頃に着工し、23年7月の稼働を目指す。従来は介護事業者向けが中心だった衛生用品の販売がコロナ禍を受け、保育施設や学校向けにも拡大。手狭になっていた物流倉庫のスペースも確保する。

同社は近年、プライベートブランド(PB)の衛生用品の開発にも力を入れていく。コロナ禍では、寒梅酒造(宮城県大崎市)と連携してアルコール消毒液を開発したほか、再生紙を使った紙タオルも新たに発売した。11月には泡の色の変化で手洗い時間の目安が分かるハンドソープを発売する予定だ。

新本社には福祉機器などの展示場を設け、認知症予防のセミナーなどが受けられるようにする。周囲には住宅街や福祉施設もあり、顧客が気軽に

寒梅酒造に製造を委託しているアルコール消毒液



立ち寄れる場所にする。利用者のニーズを把握し、商品開発に生かす。認定ことも園も併設する予定だ。同社はグループ企業が保育園を運営しており、22年4月には仙台市内に3つ目の保育園が開園する。園児らが散歩する際に使う手押し車

の開発を進めるなど保育園向けの製品も強化している。ジェー・シー・アイの大信田和義社長は「拠点の統合で事業の多角化を加速したい」と説明する。

同社は介護事業者を中心に北海道から関東の約3000法人や在宅介護などを受けている3500人ほどを販路に持つ。21年6月期売上高は前期比2割増の約56億円だった。七十七銀行の子会社でファンドを運営する七十七キャピタル(仙台市)は、同社の5100万円の増資を引き受け、事業拡大を支援する。